



お子さんが大学合格を果たした保護者のみなさん、おめでとうございます。さぞやホツとされていることでしょう。この時期に一つご提案をさせていただきます。

大学入学前のお子さんに誓約書を書かせましょう。

「大学を卒業したら一切面倒をみない」ということに同意させ、文書に残しておくのです。みなさんの時代はほとんどそうだったのですから。

誓約書の内容をもう少し詳しく言いますと、大学卒業までは学費と食費を保護者に頼るが、卒業と同時に一切の経済的な援助を受けないということ。学費の半分とか3分の1を自分で負担するという約束も盛り込めれば、さらによいでしょう。



「援助は大学まで」親子で約束を

保護者の方々へ

染谷忠彦

女子栄養大学常任理事

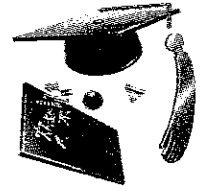
これは大学入学の時点で「親離れ・子離れ」をお互いにはっきり意識するための儀式といえます。きちんと約束を交わし、できるだけその通り実行するようにすれば、お子さんの「自立」を強く促すことができます。

大卒のニートやフリーターが珍しくない時代になりましたが、諸事情あるにせよ、主な原因はやはり親の過保護にあると私は考えています。大学の学費を保護者が負担するのが当然のようになってくる社会のあり方も、これだいいとは思えません。本当に

目的意識を持った学生は借金をしてでも大学で勉強しようとしています。また、家庭が裕福でも夜間の学部に進み、働きながら学ぶ道を積極的に選ぶ学生もいます。

私見を申し上げますと、これから「学生が自分で稼いで大学へ行く」社会になるべきだと思えます。

もちろん学生がフルタイムで働くわけにはいきません。奨学金や教育ローンなども活用し、社会人になってから返す仕組みにすればいいのです。



大学受験は、お子さんを成長させる大きなチャンスでした。受験という人生の分岐点に立った子どもに「自分で考え、結論を出し、行動させる」というサポートができていれば、自立心の芽は今、大きく育っていることでしょう。

お子さんと仲良く寄り添い、一緒に喜びあうことももちろん大切です。でも、保護者の何よりも大事な役割は、一歩離れて自立を見守ることではないでしょうか。子育ての仕上げの段階を、大学側ももちろんお手伝いいたします。

ご意見は、〒100・8055読売新聞東京本社「大学取材班」へ。ファクス03・5200・1827、メールdaigaku@yomiuri.com